



2011~2012年度
国際ロータリーのテーマ
まごころの中を見つめよう
博愛を広げるために
2011~2012年度
RI会長 カルヤン・ハネルジー

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創会幹事
例会
設立：1980年(昭和55年)1月10日
長：高須 洋志
事：馬場 将嘉
クラブ広報委員長：関谷 俊征
例会日：毎週木曜日PM12:30~
場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
E-MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

故 春日良平さんを偲ぶ

先日、名誉会員である春日良平さんがご逝去されました。会員の皆様にとって誠に残念なことと存じます。ここに名古屋瑞穂RC高須洋志会長・高村博三さん、野崎洋二さん・森恒夫さんの弔辞を掲載し、亡き春日良平さんを偲ぶことにします。

謹んで御冥福をお祈りいたします。

さようなら、春日さん

2011-2012年度 会長 高須洋志

新年の32回目の創立記念例会、その日を、クラブの創立に深く関わって頂いた春日良平名誉顧問と共に迎えることが出来なかったのは、真に痛恨の極みであります。

1980年1月、当時45歳の春日さんを始め、今なおクラブのアクティブ会員として在籍されるチャーターメンバーの方は、創立当時それぞれ30代後半から40代前半の方々でした。今の若い会員の代表、鈴木淑久さんや近藤茂弘さんと同じ年頃です。時には脱線する位に、皆さんさぞやお元気であったことと思います。そんな中であって、楽しんで決めて「外さない」安定感が春日さんにはありました。安心感と言っても良いでしょうか。人の器の大きさは、許容すること、これ以上は外へは踏み出さないという、境界線の幅で決まります。楽しむこと、遊ぶこと、一方で学び考え行動すること、その間の幅の大きい人ほど豊かな人格を持つ人です。春日さんは正にそんな大きな器を持った人でした。

創立から12年が経った、今から20年前の1992年、初めて春日さんとお会いしました。春日さんが57歳、入会したての私が49歳の時でした。お元気で。お酒が好きで、お話が好きで、ロータリーへの愛情がピンピン伝わってきました。ある日の「かすが荘」での親睦例会、訪れる会員を玄関口で迎える春日さんは既にご機嫌でした。大好きなスコッチをストレートで飲んで、嬉しそうに笑っておられた姿が忘れられません。例会が始まる前に飲んでも良いんですか？今の新しい会員なら訊きそうなことです。飲むべきでない状況の時、春日さんが飲んだことは有りません。クラブの在り方について「かたち」にだけ拘っていると答えは見つけれません。「俺が飲んでるってことは、飲んで良いってことさ」春日さんならきっとそう仰ることでしょ。

たくさん思い出を残して頂きました。クラブの様々な行事の他に、グルメ会、ゴルフ会、博多の祇園山笠、手稲の周年…。台北訪問へも、国際大会(当時は世界大会)へも、何度か一緒にしました。中でも春日さんが残していかれた最も大切なもの、それがロータリーへの愛情です。春日さんの薫陶を受けた私達が、次の世代に「想い」を伝えなければなりません。若い会員への愛情を受け継ぐことによって、春日先輩への鎮魂の誓いとしたい…そう思っています。

2011年晩秋の1日。八事日赤に入院中の春日さんを訪ね、長い時間二人で語り合いました。既に目も不自由で点滴しながらの会談に体調を心配しましたが、話は留まることを知らぬ勢いで続きました。「お疲れになりますよ」看護師が呼びに来たのを潮に手を固く握って別れました。「また来てくれよ」「はい」それが春日さんから聞いた最後の言葉、別れの言葉となりました。

万感の思いを込めてお別れの言葉を申し上げます。さようなら春日さん。いずれそちらに伺います。その節はあの日の笑顔でお迎え下さい。「よう高須君、来たかい!」と。



▲ グラスゴー世界大会にて

ありがとう 春日良平さん

高村博三

1978年1月、私は名古屋南RCに入会しました。紹介者は当時ガバナーノミニの川瀬保さんでした。入会すると会員の約3割ぐらいが知人・友人でしたが、理由は父が会員であり、当社の仕事は神宮を中心に南方面へ広がっており、私自身もJCに籍を置き、P.T.Aの会長等も経験したこともあったからだと思います。良平さんとは当然面識はありましたが、客と料亭社長の間柄でした。良平さんは南RCに1974年に入会后、S.A.A委員長(1979-1980年度)の任期中に退会し、瑞穂RCの創立に参加。6年の経験を基に南RCからの移籍者(下記4名)共々準備にあたりました。

初代会長	鈴木 俊雄(日本碍子株式会社相談役)
幹事	春日 良平(株式会社かすが荘社長)
副幹事	高村 博三(丸太運輸株式会社専務)
S.A.A	岡村 健治(熱田神宮権宮司)

創立15周年が過ぎ、瑞穂RCも順調に推移し、会員同士の連帯感も強まった頃、良平さんと打合せ、同年会の旅行会を立ち上げ、結果4回の団体旅行が行われました。

第1回 1996年6月14日(金)～16日(日) さくらんぼと山寺

- 【1日目】山形須藤農園さくらんぼ狩り～最上船下り～天童温泉湯の滝ホテル(泊)
- 【2日目】山寺立石寺～西川町～寒河江～東根温泉嵐湯(泊)
- 【3日目】山寺後藤美術館

第2回 1998年6月5日(金)～7日(日) 四万十川とドロメ

- 【1日目】名駅6:30集合～新大阪～伊丹空港～高知空港～中村・四万十川下り～宿毛椰子(泊)
- 【2日目】宿毛～高知城・桂浜～臨水～ワシントンホテル(泊)
- 【3日目】7:30朝市～8:30×2組 土佐山田C.C.

第3回 1999年6月5日(土)～7日(月) 関鯖と城下カレイ

- 【1日目】阿蘇山登山～阿蘇神社～湯布院散策～花の庄(泊)
- 【2日目】別府市内巡り～大分関漁場～臼杵石仏～月乃家城下かれい～別府湾ロイヤルホテル(泊)
- 【3日目】富貴寺～宇佐神社～真木大堂～両子寺

第4回 2000年6月24日(土)～26日(月) 出雲大社と宍道湖七珍

- 【1日目】下関經由萩市内観光・松下村塾～城下町～秋芳洞～萩・常茂恵(泊)
- 【2日目】萩～津和野～森鷗外旧家殿町通り～沙羅の木「松韻亭」～出雲大社参拝～島根ワイナリー～皆美館晚餐～松江・一畑ホテル(泊)
- 【3日目】島根G.C. 8:00×1組(三島・景山・高村)



▲ 島根・森鷗外旧家にて

瑞穂RC S10会名簿

足立謙祐(没) 茶畑弘道(没) 景山和明(没) 春日良平(没)
三島 清(退) 森 恒夫 高村博三

S10会の旅行会が短期間に国内著名地巡りをなしたのも、メンバーの協力があったのと思います。特に、毎回手弁当てコースの下見に出掛けられた春日・茶畑の両君と毎回レンタカーのハンドルを握ってくれた森君には感謝々であります。

春日良平さんを偲んで

野崎洋二

32年の歴史を誇る名古屋瑞穂RCを語る時、春日良平さんの名前を欠かす事は出来ません。春日さんは親クラブである名古屋南RCから移籍され、私共クラブの初代幹事に就任されました。そして何も知らない私達に「ロータリーとは何であるか?」、「ロータリーは何をする所なのか?」の一つ一つを丁寧に、そして時には厳しくロータリーの奉仕の心を教えて下さいました。私は春日さんの素晴らしい指導力、そして手腕に感心させられました。

春日さんは体格が良く、それと共にとても声の大きいので説得力がありました。また、読書が趣味と云う事でとても博学でいらっしゃいました。ロータリーの卓話で『忠臣蔵』を朗々と語られた事などが思い出されます。

お酒もお好きでしたね。いつもウイスキーをダブルで飲んでおられました。いささか酒が過ぎたのでしょうか?晩年は糖尿病が悪化し、7年程前から人工透析の治療を受けておられました。実は私事で恐縮ですが、昨年9月に他界した私の家内も同じ病院で人工透析をしておりましたが、いつか春日さんと偶然隣同士のベッドとなり、付き添う度によくお声をかけました。春日さんは既に目が見えない状態でしたが、相変わらずの大きな声で瑞穂RCの事を盛んに訊いてこられました。矢張りクラブの事を懐かしく思っていたのでしょうか。

春日さんには2人のお子さんがいらっしゃいます。お嬢様は既にお嫁に出されましたが、残った重人君が一昨年結婚されました。その披露宴で、ご両家を代表して春日さんが立派なご挨拶をされた時のお姿が忘れられません。その重人君も今は立派な料理職人として活躍しておられます。春日さんもきっと安心されたのでしょうか。一人静かに旅立っていかれました。

私はここに改めて私共クラブに賜った春日さんのご功績に対し、衷心より厚く御礼を申し上げます。

春日さん!長い間のご闘病お疲れ様でした。どうぞ安らかにお眠り下さい。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌。



◀ リール国際大会にて

追悼文

森恒夫

春日さん、どうしてもう2、3日頑張ってくださいでしたか。春日さんが生前渴望してやまなかった我が瑞穂RCからのガバナー輩出が、春日さんの通夜の正にその日に、地区指名委員会より正式決定した旨を通知されたのです。指名を受けられた近藤雄亮さんも内定でなく、正式決定となったら、春日さんに報告したいと言っていました。残念と言うほかありません。春日さんには見て頂けませんが、クラブを挙げて近藤さんを支え、立派なガバナー一年度にし、生前の春日さんの思いを全うしたいものと思っています。

春日さんは我がクラブ創立時に高村さんなどと共に南RCより移籍され、我がクラブ草創時の中核となられ、その後のクラブ発展の基礎を造られたこと、心から敬意を表するものです。初代、二代の幹事、第10代の会長として、我がクラブの為に尽力され、会長時には特に国際大会への参加を「オン・ツー・ソール」の標語のもとに奨励され、多数の会員及び家族の参加を得て、賑やかに国際大会に行った事が昨日の事に思い出されます。この大会後、毎年多数の会員及び家族が世界大会へ参加するのが慣例となりましたのも、春日さんの御蔭と懐かしく思い起こされます。

春日さん、西方浄土で元会員の方々と共に、我々のことをご守護下さい。春日さん、私もガバナー事務所で少し役を行うことになると思いますので、自分そちらへは参りませんが、先に行かれた方々としばらくお待ち下さい。じきに参ります。合掌。